

平成 31 年  
フィールドワーク  
報告書

日時：2019 年 2 月 22 日

場所：国立国会図書館

新大久保 飲食店

都内モスク

横浜市立大学 応用言語学ゼミ

フィールドワーク報告書

東京でのフィールドワークでは、国立国会図書館で自分の研究テーマに関する文献を読み、新大久保や代々木上原にある東京ジャーミーに訪れ視察を行いました。

東京ジャーミーでは、館長の方が施設を案内しながらイスラム教に関して様々な話をいただきました。特に印象に残っている話は、なぜイスラム教徒は豚肉を食べてはいけないのかという話と礼拝についての話です。豚肉の禁止は経典であるコーランに記載されていることで、イスラム教徒にとってコーランは絶対に遵守しなければならないものだと思います。昔、豚コレラが流行った際に多くの人々が豚肉を食べたことによって亡くなってしまい、これ以上の感染を防ぐため豚肉の禁止がコーランに記載されたそうです。コーランは一度記載したら改訂することはできないため、今でもイスラム教徒は豚肉が禁止されていると話をしてくださいました。私自身普段からなぜなのか疑問に思っていたことで非常に貴重なことを聞くことができたと思いました。また、モスクの中で話を伺っていた時に礼拝する方々が続々と入ってきて、邪魔にならないかと思っていたところ、礼拝は自分と神との一対一の行いであるから周りには関係ないという館長の方が話されていて、その話が非常に印象に残っています。

私は今アメリカに留学していますが、通っている語学学校にはアラブ系の生徒が多く通っています。彼らは UAE や Kuwait 出身で、Kuwait 出身の女性 2 人は普段からヒジャブを被り髪の毛を隠して登校しています。彼らと授業で文化について話し合う時間があったのですが、彼らの文化では大家族なのが一般的で、自分は 8 人兄弟だとか、一番上の兄弟は 20 歳離れているなどといった話を聞くことができました。逆に自分は 1 人しか兄弟がいなく、それは日本では一般的だと伝えると非常に驚いていました。アメリカに留学に来て、様々な国から来た人々と交流する機会が多くあり、自分の国の文化との違いを日々痛感しています。これからも様々な人々と交流する中で、多くの話を聞き異文化について学びたいです。

応用言語学ゼミ

170091

上間南生

## 東京フィールドワークレポート

日程：2019年2月26日

目的地：国会図書館、新大久保、代々木上原のイスラームモスク

上記の日程で、我々応用言語学ゼミの二年次、三年次合同で東京フィールドワークが行われた。目的地のうち、国会図書館と新大久保の言語景観について報告していこうと思う。

まず初めに見学したのは永田町国会議事堂のすぐ近くにある国会図書館である。そこでは、一通りフロアをまわり、主に言語に関する文献が置いてあるコーナーでどのような言語で本が書かれているか、また内容はどのようなものが多いのかを調査した。個人的には、自身の研究テーマとしているエスキモー語、それから興味のある言語としてスペイン語に関する文献があるかどうかを調べた。その後は、資料を検索するコンピュータでエスキモー語の文献をマイクロフィルムの形で保存されているものなどを閲覧した。エスキモー語を取り扱う文献資料は今まで探してきたもの以外にも新たに目にするものも多く見つけることができた。図書館見学はこれからの研究に大いに貢献してくれると期待できる良い機会になった。

次に向かった新大久保では、様々な言語で表記された看板や広告、案内を目にすることができた。新大久保といえば、韓国の料理店や、ポップカルチャーの専門店などが連なるストリートがにぎわい、我々のイメージでは、韓国文化に特化している町であると感じているのではないだろうか。やはり目にするものは日本語それから韓国語、英語で書かれた看板などが目立つのだが、よく観察してみると、中国語やタイ語の表記も見つけることができる。(写真) このような多文化が共存するような地域には、たくさんの人々がいろいろな国から集まってくるのだなと再認識した。韓国文化の町だと思っていた新大久保も実は韓国以外の国の人々も混ざる地域であったという新発見ができた。



## 東京フィールドワーク レポート

### 1、概要

今回のフィールドワークでは、国立国会図書館を最初に視察した。その後、新大久保へと移動し、言語景観の視察を行った。そして、フィールドワークの締めくくりとして代々木の東京ジャーミィを視察した。

### 2、視察について

国立国会図書館では予約なしで閲覧することができるスペースを視察した。閲覧した書籍は主に言語学に関するものである。古くに刊行された書籍は国立国会図書館内にあるパソコンを使用して電子書籍として閲覧することが可能であった。



新大久保では言語景観の視察を兼ねて昼食も摂った。新大久保では韓国料理や K-POP などの韓国の文化をよく目にする事ができた。新大久保ではお店の看板や道路標識、注意書きの看板などが様々な言語で書かれていた。韓国語や英語はもちろんのこと、中国語や東南アジアの言語や初めて目にする言語などがあった。特徴的であったのが、「ビザ」という文字が八ヶ国語で書かれていて、海外からの観光客への手厚い対応を目にする事ができた。また、露天の店員さんも韓国の方や東南アジアの方などの海外の方がたくさんいた。

代々木の東京ジャーミィはイスラム教のモスクであり、トルコの文化センターでもあった。一階にはトルコの名産品や写真などが展示されていたり、モスクに訪れた人の談笑スペースとなっていた。海外の方を中心にイスラム教の信者の方がたくさん集まってそれぞれに有意義な時間を過ごしていた。建物の屋上部分には立派な礼拝堂があり、時間になるとモスクは閉め切られ、お祈りが始まる。カフェを併設されるようでとても親しみやすい空間であった。

今回のフィールドワークでは海外の文化を身をもって体感することができ、とても有意義なものであった。



## Theme: Linguistic Landscape



In the field work program, we went a Korean BBQ restaurant, and I found two posters on the left. We can see the word “のび〜る” in the poster, and it express the chewy textures of the melted cheese in the dish. By using “〜”, the readers imagine the their textures easier. Then, why will we feel so?

According to Nozomu, F. (2006), it can be understood that the readers evaluate the “—” as “longer sound”. Also, he states that the sound which is a long duration is tend to be expressed by using the long-notesound, which means “—”.From the results of his report, it can be considered that readers imagine a sound with a long duration when they see the form of “—”.

Moreover, the shape of “〜” is similar the shapes of melted cheeses. When you eat cheeses, they are stretched like that. I simply thought the shape also influences the image we have too.

In the English, they don't have the words like “—” even though they have the sounds which is “er””iy”. The two of them sounds long, however they don't give the imagine of chewy or stretched to readers. Then, I had a curious about Korean. Korean has a similar structure of Japanese in the terms of words-system, however they also don't have such a words which lead the reader's imagine like the word “—” do in Japanese. Then, I researched various posters which is actually used in the Korean restaurant, and finally found the one below.

In the poster, they are saying “치이—즈” (チイーズ) . In Korean, they write cheese as 치즈 , however in this case, they are using 이 (イ) and — to express the chewy imagine. I consider that they don't have the words “—” normally, so it is difficult to lead the reader's imagine when it was just only “치—즈”. Thus they use 이 as one step for easier read.



Even they don't have the word “—”, the way of thoughts for words is very similar to Japanese I found.

#### References

新井理恵 (2001) 「日本語の擬態語に関する一考察—人の動作に関する表現を中心に—」 韓国外語大学.

藤沢望 (2006) 「擬音語からイメージされる音の印象および音源・事象の認知に関する研究」 九州大学.

## 東京フィールドワーク報告書

場所：国会図書館、新大久保、東京ジャーミイ・トルコ文化センター  
日程：2019年2月26日

それぞれの場所での目的は各自のテーマに沿った研究、言語景観の観察、モスクに関する宗教、文化、歴史などを体験する事であった。

私たちはまず国会図書館に訪れ、1時間半ほど各自の興味のある分野などについて図書館内の蔵書を利用し、それぞれで研究活動を行なった。国会図書館には様々な図書が所蔵されているので今後卒業論文の作成などにも国会図書館の図書を利用し、さらに研究をより良いものにする事ができるのではないかと感じた。

次に新大久保に訪れ、新大久保の雰囲気などを感じると共に昼食をとった。新大久保は観光の化粧品や食べ物などが集まっており、それらの店が集まっているところではたくさんの観光客で賑わっているのが印象的であった。またそれらの店で働いている人たちはほとんどが韓国人なので、日本ではあるが韓国語でのコミュニケーションの方が円滑に行っている場面も見受けられた。新大久保は想像の通り韓国文化が集まっている場所でもあるので日本にいながら韓国の食事、化粧品などにも触れる事が特徴的であった。

最後の目的地である東京ジャーミイはトルコのモスクであり、世界中のモスクに共通することではあるがモスクの正面はメッカの方角を向いていた。そして外見だけではなくモスクの内装が非常に色鮮やかで全体的に対称に作られているのが特徴である。下記の写真はモスクの内部の一部である。またここで女性がお祈りをするときには2階部分でするそう。そこでは20代でイスラム教に入信された日本人ガイドの方がモスク内を案内してくださり、イスラム教の歴史やイスラム文明について説明をしてくださり、イスラム教に関する知識をより得れたと感じた。その説明の中でイスラム教というのは人種などで人を差別することなく誰に対しても平等であるという説明や実は西洋文化の元はイスラム教であるという説明があり、私たちが主に高校までの教育で学んできた西洋文化などはイスラム文明が元であったということを知る事ができた。その中でも印象的であったのがイスラム教内での女性の立場である。イスラム教では女性はヒジャブと呼ばれる布を身につけ肌や髪の毛が見えないようにする他お祈りも男性から見えないところですが、これは女性差別などではなく神へのお祈りに集中するために邪念を抱かないようにするためであるという説明があり、私は今まで表面的なことしか知らなかったので今回のフィールドワークで知る事ができて今後のイスラム教の理解に役立つと感じた。今回のフィールドワークでは様々な文化を体験する事ができ、今後の生活や研究に生かす事ができるのではないかと思う。



## The linguistic landscape research in a spring fieldwork in Tokyo

We visited Shin Okubo and Tokyo Camii & Turkish Culture Center in Yoyogi Uehara as a spring field work on 22<sup>nd</sup> February in 2019. The purpose is to focus on the linguistic landscape and observe the multilingual signs in Tokyo.

I found one multilingual sign of a telegraph pole when we went out of the Tokyo Camii (Figure 1). The sign told that you are not supposed to smoke here, and the same message was told with six languages—English, Japanese, Indonesian, Bengali, Arabic and Turkish—. This is a very interesting sign. According to Backhaus (2006, p.55), most signs are written in English when he counted 11,834 multilingual signs in Tokyo. The percentage of English is 97.6%, followed by Japanese on 72.1%, Chinese on 2.7% and Korean on 1.7%. However, both Chinese and Korean are not used by this sign of the telegraph pole. In addition, although Japanese is used (渋谷区は路上喫煙禁止), it is hard to read the Japanese sentence because it is used the yellow background with white letters. It seems that this message emphasizes Indonesian, Bengali, Arabic and Turkish because it is used the yellow background with black letters. It is easy to read. It is assumed that this language choice is depending on the place. For example, Turkish is important language for people who visit Tokyo Camii because this place is also Turkish Culture Center, so it is understandable why Turkish is emphasized. In addition, there are many Arabic calligraphies in the mosque (Figure 2). The Arabic calligraphies show some names who is associated with Islam, such as Allah and Muhammad, so Arabic is closely related with this place. Thus, it is concluded that the language choice of multilingual sign is associated with the place.

Reference: Backhaus, P. (2006). Multilingualism in Tokyo: A look into the linguistic landscape. *International Journal of Multilingualism*, 3(1), 52-66.



(Figure 1)



(Figure 2)



## 「東京フィールドワーク：東京ジャーミイを見学して」

国際文化コース 160681

山田爽香

### ・事前学習<sup>1</sup>

東京ジャーミイは東京都渋谷区の代々木上原駅の住宅街に位置するオスマントルコ様式のモスクだ。モスクとはイスラム教徒が集う礼拝堂のことで、アラビア語で「額づく場所」を意味する「マスジド」が英語でモスクと呼ばれるようになった。

金曜礼拝など集団での礼拝が行われる大きなモスクのことをジャーミイと呼ぶ。日本最大規模の東京ジャーミイのデザインは、トルコ・イスタンブールにある「スルタン・アフメト・ジャーミイ」に似ている。

水、コンクリート、鉄筋以外の建設資材や調度品はすべてトルコから運んできており、約100人ものトルコからの職人が1年に渡って2階の礼拝堂や1階文化センターの内装を手掛けた。

東京ジャーミイのルーツは中央アジアにある。日本の歴史で長い間、イスラム世界との直接の接触はなく、イスラム教徒が集団で日本に入ってきたのは、20世紀に入ってからであった。東京にモスクができたのも、ロシア革命で難民となったタタール人の手によるものであった。中央アジアのトルコ系の民族で、シベリア、中国を經由し日本にやってきた。イスラム教徒の彼らは日本で子供たちの学校やモスクを建てた。1928年に日本政府から学校設立の許可を得て建設に取り掛かり、1935年に開校した。礼拝堂の完成は、学校開校から3年後の1938年だった。

東京ジャーミイには多くの外国人が礼拝に訪れる。近年は、東南アジアからのムスリムが増えており、アラブ圏の信者が少ないことから、金曜日の集団礼拝の説教はアラビア語ではなく、信者のニーズをあわせてトルコ語、日本語、英語の3言語で行われている。

### ・見学した感想

今回のフィールドワークで初めてモスクに行った。イスラム教に馴染みはなかったが、今回のフィールドワークでイスラム教やモスクの知識を深めることができた。最初に感じたことは、日本にこんな綺麗な建物があったんだということだ。中には、外国人も多く、外国に来たような気分になった。外光によって輝くステンドグラスに魅了された。

最も印象に残っていることは、ガイドさんのお話だ。ガイドさんがイスラム教徒の女性にベールを常につけていることに恥ずかしいと思ったことはないのかと質問した時、その女性はベールを付けることは誇りであるという内容を答えたというお話を聞いた。私は、そこまで服装に強い思いを持ったことがなく、堂々とベールを付ける女性をカッコいいと思った。

実際に礼拝の様子も見学することができ、とても有意義な時間でした。

---

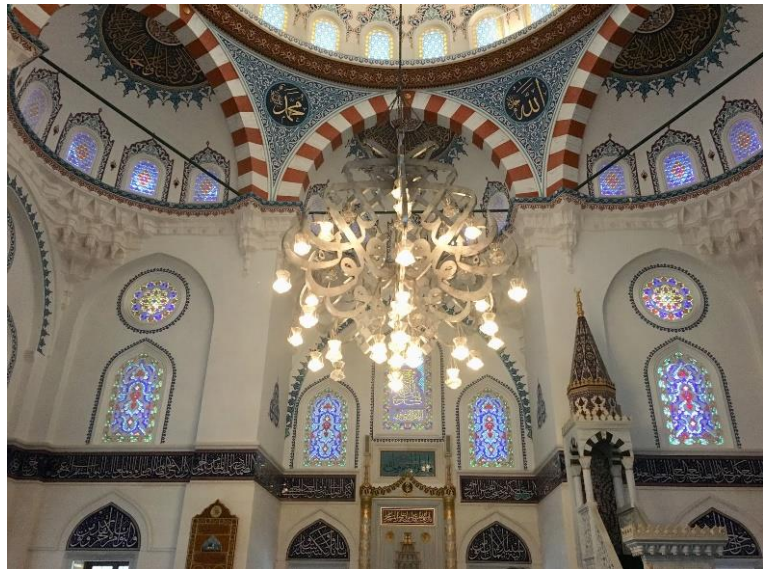
<sup>1</sup> 「日本最大のモスク東京ジャーミー」 <https://www.nippon.com/ja/features/c01301/>

2019年2月22日に東京で応用言語学ゼミのフィールドワークを行い、国立国会図書館、新大久保、モスクの3か所を訪れた。それぞれの訪問の目的は、国立国会図書館では各自研究テーマに沿った資料調査、新大久保ではLinguistic Landscape(言語景観)の観察、モスクでは宗教や建築、文化、歴史の体験、調査であった。

最初に訪れた国立国会図書館では、先生による館内の案内後、各自テーマに関する資料を探し、1時間半ほど調査を行った。私はアイヌ語や他の少数言語に関する資料や辞典に目を通したが、世界の多種多様な言語の辞典が蔵書されていること、文字を持たないアイヌ語の辞典が存在することが印象的であった。

新大久保では、昼食を食べた店内のポスターやメニュー、街の看板等を観察した。韓国語と日本語が併記されているもののほかに、韓国語とその韓国語に対応するルビが日本語で書かれているものがあり、街にある言語だけを見ても、韓国の雰囲気を感じることができた。

最後に、モスクでは20代でイスラム教に入信された日本人ガイドの方に案内をしていただき、イスラム教やイスラム文明についての理解を深めることができた。下の写真はモスク内で撮影したものである。天井のアーチと色鮮やかな装飾が特徴的で、モスク正面はメッカの方角を向いている。ガイドの方のお話の中で特に印象深かったのは、西洋文化発展の契機となったのはイスラム文明であったということと、イスラム教は人種差別をせず、多様な民族を受け入れる寛容さを備えているということだ。イスラム文明の発展は早く、ヨーロッパの国々が未だ確立していなかった時から、数字が発明され医学や科学の研究が進み、カメラなどの機器も開発されていたそう。日本の歴史では西洋文化に焦点を当てていることが多い印象があるが、その西洋文化が発展する際に基礎となっていたのはイスラム文明であったと教わった。今回のフィールドワークを通じ、世界の多様な文化や歴史、宗教について知ることができ、視野や考え方が広がったと実感している。



## 応用言語学ゼミ 春のフィールドワーク報告書

日時：2019年2月22日

場所：国立国会図書館、新大久保の韓国料理店、都内のイスラム礼拝堂（モスク）

私は上記の日時・場所にて応用言語学ゼミの春のフィールドワークを行った。このレポートでは、フィールドワークで行った場所について学んだことを記述する。

最初に行った場所が国立国会図書館である。以前から日本で出版された本や雑誌などがほとんど蔵書されているということは知っており、行ってみたかったが行く機会が無かった。実際に行ってみると、手つきも思ったよりも簡潔に済み入りやすい場所であった。驚いたのはその蔵書数で、館内を探索してみると難解な学術書などあらゆる本があった。開架されているのはほんの一部であり、大多数は情報検索システムにより蔵書を請求するというシステムが導入されていることもわかった。今後大学や社会に出て勉強していく中で、調べたいことがあったときなどには最適な場所であると感じた。余談だが、カフェテリアのソフトクリームは価格の割にとってもおいしく、難解な書籍を読むことに疲れた頭を休めるのに最適だと感じた。

次に新大久保の韓国料理店に昼食を兼ねて韓国料理がどういったものか調査を行った。韓国料理は辛いものばかりだと考えていたが、そんなことはなかった。特に感動したのはチキンである。味付けがとても独特で、韓国料理の奥深さがわかった。冷麺は盛岡冷麺よりもとても細く、コシがあつてとてもおいしかった。麺が細い方がスープに絡みやすく、一層冷麺のおいしさを引き立てる。もちろん盛岡冷麺の麺も大好きだが、韓国冷麺の麺もかなり食べ応えがあった。また、スープは牛骨スープで言うまでも無くおいしかった。他にはスンドゥブなども食べたが、ご飯を入れて雑炊のように食べるとよりおいしく食べることができた。

最後に代々木上原にあるイスラム礼拝堂である。このモスクはなんと日本最大の大きさを誇っているらしく、外観・内装共にまるで異世界に迷い込んだかのような荘厳な作りであった。本来はそこで感じたことや学んだことを記述すべきであるが、余りにも量が多くなり、このレポートにまとめることはできないので、このレポートでは省略する。だがモスクでの感動を一言で言い表すと、普段の生活では決して味わうことのできない神秘を体感することができた。また、案内をして頂いた下村茂さんがとてもユニークで素敵な方だった。是非彼に会いにもう一度足を運びたいと思わせる話し方や、イスラムに対する理解・見識の広さがひしひしと伝わってくるガイドで大変勉強になった。

